

生徒の学習状況についての実態および定期考査等を含む学力調査の結果等を踏まえた

内容別・観点別の分析表

	ア 内容別結果の分析	イ 観点別結果の分析	ウ 内容別・観点別 (左記アとイ)のクロス分析
国語	「児童・生徒の学力向上を図るための調査（平成30年6月）」の結果から、「A 教科の内容」と「B 読み解く力に関する内容」の両方で、都の平均を上回っており、概ね良好であると考えられる。AとBの合計においても、都の平均を2.2ポイント上回る結果となっている。	「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果から、「B 読み解く力に関する内容」において、都の平均を2.2ポイント上回り、特に「読み取る力」においては、6.3ポイント上回り、日常の学習活動の成果が見られた。また、その他の観点においても都の平均を上回る結果になり、関心・意欲・態度は、全教科の中で最も高い結果であった。	都の平均を上回る結果が見られた。さらに学力向上を図るため、常に指導方法などを検討し、また、発展的な内容も指導に取り入れることで、理解を深め、知識を広げることが今後求められる。加えて、基礎的基本的な内容の定着が必要な生徒のレベルアップが課題である。
社会	「練馬区学力調査（平成30年6月）」の結果から、「日本の地域構成」に関する内容の正答率が区の平均と比べて9.4ポイント低かった。 「児童・生徒の学力向上を図るための調査（平成30年6月）」の結果から、「A 教科の内容」は、都の平均を1.8ポイント上回った。また、「B 読み解く力に関する内容」は、都の平均を0.4ポイント上回った。	「練馬区学力調査」の結果から、「資料活用の技能」が前年度の校内の平均正答率よりも5.5ポイント低かった。 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果から、「思考・判断・表現」が都の平均と比べて1.9ポイント、「技能」が1.1ポイント、「知識・理解」が3.4ポイント上回ったものの、「関心・意欲・態度」は1.2ポイント下回った。	「練馬区学力調査」の結果から、「活用」について、区や全国の平均正答率を上回る結果が見られたが、「基礎」はわずかながら区の平均正答率よりも下回った。よって基礎的基本的な学習の内容の定着が課題である。授業の展開を工夫し、「関心・意欲・態度」を高めるとともに、「読み取る力」を伸ばすことが課題といえる。
数学	「全国学力・学習状況調査（平成30年4月）」の結果、すべての項目において、都の平均を上回っており、基本的な知識を習得し、それを活用する力が概ね身に付いていると考えられる。特に、図形の基本的な知識は、都の平均を3.9ポイント上回っている。	「全国学力・学習状況調査」のい結果から、4観点のすべてにおいて、都の平均を上回っている。特に、「技能」や「知識・理解」の観点で、約3.5ポイント上回っており、基礎的な知識や技能の定着は概ね良好である。	すべての項目で、都の平均を上回る結果であった。しかし、「見方・考え方」の観点は、良好な結果であったとは言えない。また、数学に関する質問紙は、肯定的解答が都の平均を下回る結果であった。数学を意欲的に取り組み、活用しようとする態度を育むことが課題である。
理科	「全国学力・学習状況調査（平成30年4月）」の結果、物理分野と地学分野において都の平均を下回った。一方で、化学分野・生物分野の知識・理解は、都の平均を上回った。地学分野については、知識・理解の定着を図ることが課題である。	「全国学力・学習状況調査」の結果から、「思考・表現」の観点は、全国、都の平均を上回る結果となった。一方で「観察・実験の技能」の観点は、全国、都の平均を下回った。 観察・実験を重視し、予想（仮説）から考察までの流れの中で、原理原則や知識を基に結果について考察し、自らの言葉で表現する学習活動を増やすことが求められる。	「全国学力・学習状況調査」の結果から、「活用」に関する問題は全国、都の平均を上回ったが、「知識」に関する問題は全国の平均を下回る結果となった。基礎的基本的な学習内容の定着を図ることで、活用する力も伸びると考えられる。このため、繰り返し演習を行うことで知識の定着させることが課題と考えられる。
英語	「全国学力・学習状況調査（平成30年4月）」の結果、「A 教科の内容」、「B 読み解く力に関する内容」は都の平均を上回った。特に教科の内容は、10.4ポイント上回り、基本的基礎的な知識を習得している割合が高いと考えられる。また、AとBの合計においては、9.1ポイント上回った。	「全国学力・学習状況調査」の結果、4観点全てにおいて、都の平均を上回った。外国語表現の正答率が50.4ポイントであるものの、都の平均より30.4ポイント上回っている。1年次の授業での表現の活動が生かされている結果と考えられる。一方、時制や冠詞の理解が不十分であるため、正確に表現する機会を設定していく。	定期考査の結果を見ても、「読み取り」や「書くこと」についての正答率は若干低い。これらの項目については、苦手意識がある生徒が多いため、スモールステップにより、苦手意識をなくしていくことが大切である。また、帯活動や単元の最後にそれらの機会を設けるなど、取り組む機会を増やしていく必要がある。